

## 未来を守ろう！事故ゼロへ！

9月28日(土) 中央公民館において交通安全・安心フェスタが開催されました。

フェスタでは、加茂警察署の山口交通課長から交通安全講座が行われ、交通事故の多い時間や原因について分かりやすく説明をしていただきました。

坂祝駐在所の藤田所長からは、交通安全及び防犯に対する講話が行われました。最後は自転車ヘルメットの抽選会が行われました。



## イタリアマラネロ市からようこそ坂祝町へ！

10月8日(火)、役場公室にてマラネロ市から国立フェラーリ工業専門学校の学生と教授計4名の訪問がありました。交流会では伊藤町長と日本の好きな食べ物やアニメについて話すなど楽しいひとときを過ごしました。また、日本の食文化を知ってもらうため、美濃加茂市内の飲食店で昼食を食べました。

マラネロ市長は「コロナ禍で途切れてしまった中学生ホームステイ事業も再開したい」との意向も表明されました。



## 熱戦！ゴルフコンペ！

10月11日(金) 賑済寺ゴルフ場において第27回坂祝町ゴルフコンペが開催されました。

町内の68人が参加し、晴天に恵まれ絶好のゴルフ日和となりました。

参加者は「天気も良く楽しく回ることができました」と秋の風を感じながら日頃の練習の成果を発揮していました。表彰式にはほぎもんも立ち会いました。



■優勝：渡邊 重則さん ■準優勝：伊藤 和政さん ■3位：松田 正吾 ■女性の優勝：兼松 澄子さん

## 初めての企業版ふるさと納税の寄附を受けました！

10月17日(木) 役場にて給排水・衛生・空調設備、土木・上下水道の設計施工などを手掛ける「株式会社 和泉」の林本知明代表取締役社長と長尾友文専務取締役が役場を訪れ、企業版ふるさと納税を活用して町に50万円を寄附されました。伊藤町長から感謝状の贈呈を行い、「通学時に小学生も利用できる駅前のトイレ建設に使わせていただきます」と感謝を伝えました。町が企業版ふるさと納税の寄附を受けるのは今回が初めての事です。



## 防犯知識で自分の身を守ろう！

10月17日(木) 遊々こども園において、坂祝駐在所のお巡りさんと地域学校安全サポートチームが防犯の知識を高めるため防犯教室を開催しました。

子どもの連れ去りを未然に防ぐために、「知らない人にはついて行かない・大声で助けを呼ぶ」など犯罪から身を守る行動を学びました。

教室終了後はパトカーの乗車体験と記念撮影を行いました。



「坂祝町青少年育成町民の集い 元気なさかほぎ発表会」で  
青少年の主張発表を行った田中栄真さんの作文です。



青少年の主張  
Opinions of Teenager  
発表作文



## 「言葉と想像力」

中学校 3年 田中 栄真

私は、人と関わるうえで、大切にしていることがあります。それは、相手が思っていること、感じていること、考えていることを想像してから、言葉を発することです。そう思うようになったきっかけとなる出来事がありました。

ある時、何気なく友達から「将来の夢ってなに？」と聞かれました。私の将来の夢は保育士です。子どもが好きで、身近な子と関わる中で保育士という夢が膨らんでいきました。私は素直に「保育士になりたいんだ」と答えるとこんな言葉が返ってきました。「え、意外だね」と。「意外」という言葉。みなさんは、この言葉を良い意味で受け取りますか、それとも悪い意味で受け取りますか。私は、悪い意味で受け取りました。なぜなら、私は髪が短くサバサバした性格なので、外見や印象で判断されたと思ったからです。どうしてそんな言葉を言われなきゃいけないんだろう、外見や印象で判断されなきゃいけないんだろうと悲しい気持ちでいっぱいでした。実は、小学生の時も同じようなことがありました。小学生の時は、6年間警察になりたいと思っていました。しかしその時も「警察官になりたい」と友達に話したら「警察官は頭が良くないとなれないよ」という言葉を言われ「じゃあ私には無理なのかな」と諦めてしまったこともありました。

家に帰り、私は家族に「保育士になりたいって友達に話したら、意外って言われて、ショックだったんだよね」と話しました。すると、家族は「保育士いいじゃん！がんばれ！」という言葉くれました。私はその瞬間心がすっきりして、嬉しい気持ちになりました。

この出来事から「言葉」によって、誰かを悲しませることもできるし、喜ばせることもできるということを実感しました。

きっと「意外」と言った人、「頭が良くないとなれないよ」と言った人は、私のことを傷つけようとして言ったわけでは決していと思います。でも、無意識のうちに相手のことを「あの人は〇〇だ」と判断し、勝手に決めつけたり押し付けたりしているのかもしれない。調べてみると「あの人は〇〇だ」と決めつけてしまうことを「ステレオタイプ」と呼ぶそうです。

「言葉の暴力」という言葉があるように、ステレオタイプによって人を判断し、「男だから」「女だから」「外国人だから」などと心無い言葉を発してしまう人が学校にもいることも事実です。さらに「うざい」「死ね」「きもい」などの言葉を口癖のように使っている人もいます。自分に言われていなくても嫌な気持ちになるのに、直接言われている人はどれだけ辛い思いをしているのだろうと思うと、心が痛いです。

自分が口にする「言葉」によって、相手の気持ちを大きく変えることができます。

「言葉」で相手を嬉しい気持ちにさせることも悲しい気持ちにさせることもできます。人それぞれ思っていること考えていることは、違うということをもっともっと知る必要があると思います。また、悪意なく言った言葉でも目の前の人を傷つけていることもあります。私は、言われた人がどういう気持ちになって、どうやって受け取るのかを考える想像力が足りないから、平気で悪口を言ってしまう人がいるのだと思います。普段、息を吐いたり吸ったりするのと同じくらい当たり前のように使っている「言葉」。その言葉に人の心を変える力があることをもっとみなさんに知ってほしいし、想像力を働かせてほしいです。

まだまだ私自身、完璧にはいきませんが普段から「ありがとう」や「いいね！」などの温かい言葉を使うことを心掛けています。これからも想像力を働かせ、言葉を使っていきます。言葉によって傷ついたり、悲しんだりする人がいなくなることを心から願っています。

※原文表記のまま掲載しています。